

中国のほんの話(44)

辞書を読むことの勧め

蔭山 達弥

桜咲く4月、新入生の皆さんは、これから始まる大学生生活にワクワクしながら、日々を過ごされていることでしょう。購入したばかりの教科書やノートの匂いは、きっと皆さんの知的好奇心をかきたててくれることでしょう。小さい時から、テレビゲームや携帯電話に慣れ親しんできた皆さんは、多分、これから専攻する外国語の辞書が入った電子辞書を買いたいと思います。電子辞書も使い次第で、役に立つのですが、余裕があるなら、いや是非とも紙の辞書を買って、日常手元に置いて使って欲しいと思います。そして、辞書はただ単に「引く」だけではなく、「読む」ことの面白さを知って欲しいのです。「読む」ことによって、知らず知らずに専攻する「外国語の達人」になって欲しいのです。



さて、私は本学に勤務して、この4月で22年目になりますが、中国語学習をとりまく環境は以前と比べて比較にならないほど良くなりました。私が大学に入学した30年前は、中国語の辞書は、数種類しかありませんでしたが、現在は、入門者向けから、上級者向けまで、何種類も出ており、正直言ってどれを選んでいいのかかわからないと思います。これから中国語を学び始めようとする皆さんには、『はじめての中国語学習辞典』（相原茂編著、朝日出版社、¥2800+税）を薦めたいと思います。長年、NHKのテレビ講座を担当してこられた筆者の思いが反映した入門に重点をおいた学習辞典です。辞書の見出しの語数はほぼ1万、初級、中級には十分な量で、新語を補い、成語も追加してあります。中国語では同じ「消す」でも、「黒板を消す」と「テレビを消す」では動詞が違います。中国語で大切な動詞と名詞の固定的な組み合わせを「連語」と呼びますが、この辞書では囲みで並べてあります。類義語の弁別を重視した「目で見る類義語」、中国の文化や風俗習慣を理解するものとしての「百科知識」、文法を説明した「語法」欄、よく使う表現をまとめた「表現Chips」など、一冊の辞書で発音があり、文法があり、百科知識があり、文化もコミュニケーションもある、言わば参考書の要素も兼ねた辞典です。何よりも私が気に入っているのは、両手にすっぽり納まるサイズでありながら、文字が大きく見やすい点です。

中国語には機械的な丸暗記はありません。英語のような動詞の活用や、時制や三単現といった暗記事項はほとんどありません。中国語は入門しやすい外国語です。ところが、なかなか出口が見えてきません。2年間学んでも、中級のレベルにも達しない人は大勢います。何故でしょう？教室で先生に教わることや、それに対する学習、試験勉強だけでは勉強する量が全然足りないのです。皆さんは中国語の文法を学習していて「何故そうなのか？」という疑問にぶつかることがよくあると思います。人間は納得しないとなかなか頭に入らないものです。「何故そうなのかという Why?に初めてこたえている」のが『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（相原茂・石田知子・戸沼市子共著、同学社、¥2500+税）です。中国語の文法、語法ルールを何故そうなのかという点をおさえながら学んでいく、本気で中国語を攻略しようという人のためにつくられた本です。課外学習に一人で学べるお薦めの一冊です。

最後に、中国語をはじめて学ぶ人だけでなく、復習をかねて学び返す人を対象にして編集された『中国語基礎知識 まるごとわかるこの一冊』（中国語友の会編、大修館書店、¥1700+税）も推薦したいと思います。この一冊のなかに、中国語とはどういうことばということから始まって、文法の基本、日常欠かせない動詞を使った表現、さらにはスポーツ用語、最新の中国語学習情報などが入っています。とにかく、中国語であれ、他の外国語であれ、それなりの量をこなさなければ、「できる人」にはなれないのです。

かげやま たつや(教授・中国文学)